

メキシコにおける企業の安全・危機管理

日産自動車株式会社 CEO オフィス

チーフセキュリティオフィサー 亀井 類

日産自動車は、メキシコにおいて1961年の現地法人設立から50年以上にわたり、ビジネスの拡大を続けている。現在、現地法人、研究センター、複数の工場などを有し、自動車部門においてはメキシコ国内でトップのマーケットシェアを維持するまでに至っている。ビジネス拡大の中、多くの駐在員・出張者を派遣するにあたり、従業員の安全・危機管理を最優先課題として最新の現地事情を分析し、継続して対策を強化してきている。

本稿では、メキシコにおける企業としての安全・危機管理の1事例としての当社の対応を紹介する。

地域により異なる治安情勢

メキシコは、一般的に治安面では良い状態とはいえ、邦人の犯罪被害件数も、大使館に届出のあったものだけでも、年100件程度に上るとされている。また、今や世界でも最も誘拐事件の多い国の1つであり、外国人であるということで誘

拐の標的になることはめったにはないが、裕福そうに見えるという理由で確実に誘拐のリスクには直面している。

地域的にみると、メキシコにおける麻薬組織（カルテル）絡みの紛争の大半は、限られた地域、特に北東部の国境地帯の州と中西部の海岸沿いの州に集中している。これらのトラベルリスクが高いと評価されている地域には、強い勢力を有するカルテルと犯罪組織が存在しているほか、銃撃戦および道路封鎖の頻発、軍や警察の部隊や施設への襲撃、殺人事件の高い発生率がみられる。

また、最近はこれまで比較的安全とされていた地方都市でも邦人に対する犯罪が増加しており、地方都市での日系企業および邦人数の増加に伴う犯罪被害のさらなる増加が懸念されている。

外務省が公表している安全情報(図)をみると、特定の地域がレベル2（不要不急の渡航は止めてください）とレベル1（十分注意してください）に

指定されている。レベル2に指定されている場所はカルテル絡みの紛争が頻発している地域であるが、この地域の周辺まで事件が広がることも多く、当社では指定されたレベル2地域より少し広めの範囲で出張制限をかけている。

レベル1に指定されている地域・都市は、広範囲に散らばる。以前は裕福な都市として住みたい場所の上位にあげられていたような

図：メキシコ治安レベル——外務省 海外安全情報(2015年9月)より

